

指定管理者運営評価シート

年度	平成28年度
所管課	観光振興課

1 公の施設

公の施設名称	佐賀市衛の湯
所在地	佐賀市富士町大字上熊川204番地8
施設概要	敷地面積 4,166 m ² 建築面積 565.96 m ² 建物構造 浴場棟:鉄筋コンクリート造平屋建 管理等:木造平屋建 竣工 平成10年3月

2 指定管理者

指定管理者	団体名	有限会社熊の川温泉ちどりの湯	指定期間	開始日	平成28年4月1日
	所在地	佐賀市富士町大字上熊川204番地8		終了日	平成31年3月31日
選定方法	非公募		利用料金の採否	採	

3 指定管理者の管理の実施状況等

①施設の運営業務	<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体の管理業務、入浴施設の管理、物品の販売、食堂の運営 ・施設の総務・経理業務 ・集客促進業務 ・利用料金の徴収業務 ・熱交換器の操作、日常点検業務 ・入浴施設の水循環システムの操作、日常点検業務(水質検査を含む。) ・空調設備の操作、日常点検業務 ・その他機械設備の操作、日常点検業務 履行状況:適正に実施されている。
②施設の維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・建物内の日常清掃、定期清掃業務 ・建物内の機械保安警備業務 ・敷地内の緑化及び樹木の剪定、防除等の管理業務 ・機械設備等の保守点検業務 履行状況:適正に実施されている。
③指定管理者の提案による取り組みとその実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントカード(入浴1回または食堂もしくは売店での買い物500円につき1ポイント、30ポイントで入浴1回無料)のポイント2倍デーを設定、また平成28年度より利用者の動向等を把握するため、ポイントカードを紙カードからデータ管理できるカードに変更した。 ・毎週火・木、毎月22日(夫婦の日)、26日(風呂の日)。22日、26日が火・木の場合は4倍。母の日、父の日でギフト券販売を行った。 ・菖蒲湯、夏まつり、七草粥など季節の催しのほか、年間を通して集客イベントを実施 ・桜マラソン、富士健康マラソン、パークゴルフ大会等スポーツ大会とのコラボによる集客事業を実施 ・バルーンフェスタ等のイベント会場でのチラシ配布 ・食堂メニューの充実 ・定休日(毎月第3木曜)に従業員研修を実施 ・平成27年度より、熊の川温泉の一部、古湯温泉の一部、三瀬温泉やまびこの湯で温泉手形の販売を行っている。

施設利用状況(量)を示す指標名	単位	指定期間中の実績				
		(平成27年度)	平成28年度	年度	年度	年度
① 入館者数	人	(86,917)	85,148			
②						
③						
④						
⑤						

4 利用者ニーズ・満足度等の把握(実施していない場合は、その理由)

①利用者ニーズ・満足度等の把握実施方法	
アンケートボックスを設置 従業員が直接受けたものは、業務日誌に記録し、従業員間で情報共有を図っている。	
②ニーズ等の把握結果	③把握結果等への対応状況

5 指定管理料およびその内訳(指定管理者の収入)

(単位:千円)

区分	平成28年度決算	年度決算	年度決算	年度決算	年度決算	
指定管理料	8,107					/
うち修繕費						
うち備品費						
うち光熱水費	3,072					
摘要(補足説明等)						

6 使用料等の収納状況(市の収入)

(単位:千円)

区分	平成28年度決算	年度決算	年度決算	年度決算	年度決算	
使用料						/
光熱水費等使用者負担金収入						
その他の収入						
合計	0					
摘要(補足説明等)						

7 指定管理者の自己評価

・入館者数は前年比約98%と昨年より微減。しかしながら平成23年度～平成27年度までは増加傾向となっており、その間力をいれてきた、清掃の強化によるイメージアップ、ポイント2倍デーやギフト券に加え、パークゴルフ大会とのタイアップ、温泉手形の販売等新たな取り組みの影響が大きいと考えられるが、平成28年度はあらたな取り組みを行なっておらず、9月の台風接近による古湯映画祭中止等の影響もあり微減となったことが考えられる。
 ・施設・設備の老朽化にともなう修繕費等の増大が懸念される。
 ・引き続きサービス向上と費用削減に努める。

8 市による指定管理者の評価

・平成23年度より清掃の強化や食堂メニューの充実、ポイント2倍に加え、パークゴルフ大会とのタイアップ、温泉手形の販売等新たな取り組みによるサービス向上行など、利用者増加に向けた取り組みは評価できる。また、接客に関する苦情等がなくなった点においても、従業員研修の効果が出ているものと評価できる。
 ・これまで以上に広報活動・営業活動に力をいれて集客増を期待する。
 ・施設の老朽化による修繕費用の増大が懸念される、経費節減の徹底が必要。